2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	スポーツ科学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	スポーツチャイルド演習Ⅱ(ゼミ)		必修/選択の別	選択必修	授業時数(単位数)	60(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	401
担 当 教 員	井上　佳子	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

幼児の発育発達を学び、形態および特性を理解することができる。
また、様々な運動遊びを通してその様式と指導方法を理解することができる。

《成績評価の方法と基準》

出席点(20%)・平常点(10%)・試験(70%)から授業の理解度を総合で示す。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布資料、幼児期運動指針

《授業外における学習方法》

毎回の授業にて行った内容の復習を行うこと。

《履修に当たっての留意点》

グループワークを中心に展開。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本講義の進め方について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	ガイダンス		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マット運動(前回り)の動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	マット運動		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マット運動(後回り)の動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	マット運動(2)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マット運動(側転)の動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	マット運動(3)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マット運動の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	マット運動指導		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マット運動の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	マット運動指導(2)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	縄跳び遊びの動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	縄跳び遊び		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	縄跳び遊びの動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	縄跳び遊び(2)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	縄跳び遊びの指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	縄跳び遊び指導		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	縄跳び遊びの指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	縄跳び遊び指導(2)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	竹馬あそびの動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	竹馬あそび		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	竹馬あそびの動作について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	竹馬あそび(2)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	竹馬あそびの指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	竹馬あそび指導		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	竹馬あそびの指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	竹馬あそび指導(2)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の実践について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の実践		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	スポーツ科学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	スポーツチャイルド演習Ⅱ(ゼミ)	必修/選択の別	選択必修	授業時数(単位数)	60(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	401
担 当 教 員	井上　佳子	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

幼児の発育発達を学び、形態および特性を理解することができる。
また、様々な運動遊びを通してその様式と指導方法を理解することができる。

《成績評価の方法と基準》

出席点(20%)・平常点(10%)・試験(70%)から授業の理解度を総合で示す。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布資料、幼児期運動指針

《授業外における学習方法》

毎回の授業にて行った内容の復習を行うこと。

《履修に当たっての留意点》

グループワークを中心に展開。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の実践について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の実践(2)		
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の指導		
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の指導(2)		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の実践について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の実践		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の実践について理解することができる。		講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の実践(2)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の指導		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の指導(2)		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の実践について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の実践		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の実践について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の実践(2)		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の指導		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の指導方法について理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の指導(2)		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	走る・跳ぶ・投げるの要素を入れたサーキットトレーニングの作成方法を理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	サーキット運動		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	走る・跳ぶ・投げるの要素を入れたサーキットトレーニングの作成方法を理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	サーキット運動(2)		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児体育の指導案の作成方法を理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児体育の指導案の作成方法を理解することができる。	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	まとめ(2)		